

緩和ケア診療部

「病気と診断された時から緩和ケア」が非常に重要です。どんな早期がんだったとしても宣告されたらもう「頭は真っ白。気になること、不安なことがいっぱい。」というのが当たり前だからです。痛みなどの症状を取るだけが緩和ケアではありません。

病気を抱えた状況では、からだだけでなく、こころ、日々の暮らしへの影響などさまざまな“つらさ”が伴います。緩和ケアとは、その“つらさ”をやわらげ、快適な生活を送れるよう支援する医療です。

緩和ケアは終末期のがん患者・家族のかかわり、症状緩和を中心に発展してきました。緩和ケアの広がりとともに治療初期からの介入が生活の質の向上、ひいては生命予後の改善効果も期待できることが認知されるようになりました。近年では、心不全や慢性呼吸不全など重い病気を患う方へのかかわりなど働き場を広げつつあります。また、今後の病状の変化に備えて治療の選択や療養の規模をあらかじめ話し合うAdvance Care Planning (人生会議)の重要性が叫ばれるようになり、診療における緩和ケアの重要性は日々高まっています。

本院では従来より多職種による緩和ケアチームにて対応してまいりました。がん治療に携わる診療科だけでなく、神経難病、腎障害の終末期の方々などへの介入依頼も増えてきました。また、緩和ケアチームへの依頼時期は終末期が多かったのですが、徐々に早期、進行期から依頼をいただくようになり早期から緩和ケアの提供を行う体制に変化しています。

令和元年10月からは緩和ケアの専従医師も加わり、更に患者様のサポート体制を目指して緩和ケア診療部が発足し、ますます緩和ケアチームが充実しました。

病気と向き合う方々に寄り添い、“つらさ”をやわらげ、生活の質を改善するだけでなく、そこからさらに希望ある生活を送っていただけることを目指しています。



スタッフ体制

部長 [妙中直之](#)
外科系副院長
兼 緩和ケア診療部部長
日本緩和医療学会暫定指導医
日本緩和医療学会緩和医療認定医

副部長 [池尻義隆](#)
メンタルヘルス科診療主任部長
兼 緩和ケア診療部副部長

医長 今村拓也 専従
日本内科学会総合内科専門医
日本緩和医療学会緩和医療認定医

看護師 上田聖子
がん性疼痛看護認定看護師

看護師 木田久美子
緩和ケア認定看護師

認定情報

日本緩和医療学会研修教育施設